

本論文は

世界経済評論 2024年7/8月号

(2024年7月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

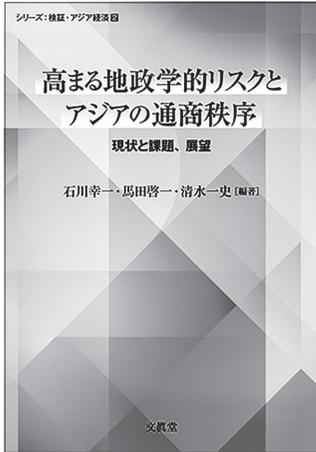
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン販売

高まる地政学的リスクと アジアの通商秩序

：現状と課題，展望

国士舘大学客員教授 平川 均



【編著者】

石川幸一（いしかわ こういち）

亜細亜大学アジア研究所特別研究員

馬田啓一（うまた けいいち）

杏林大学名誉教授

清水一史（しみず かずし）

九州大学大学院経済学研究院教授

【発行】文眞堂，2023年10月

【判型】A5判，248頁

【定価】本体2800円＋税

今世紀，とりわけ2010年代後半以降，世界の政治経済の変化が激しい。貿易では，中国経済が10年に世界第2位に浮上する頃から，世界の中国への関心は高成長から国際的影響力の問題に移った。トランプ政権が2018年に始めた米中貿易戦争はバイデン政権に引き継がれ，対立点も貿易から先端技術覇権，国家安全保障へと質的に変化してきた。ところで，グローバル化の波に乗り経済を急成長させてきたのが，とりわけ中国を筆頭とするアジアである。米中覇権争いの真ただ中であってアジアの最大の課題は，新たな発展に向けて国際環境をどう創っていくかである。

石川・馬田・清水編『高まる地政学的リスクとアジアの通商秩序』は，アジア経済を取り巻く環境変化の中での通商秩序の在り方を探ろうとするものである。「はしがき」と第1部「高まる地政学リスクとアジア」，第2部「不透明性を増すアジアの経済連携の行方」，第3部「アジアのニューノーマル（新常态）への課題」の計15章で構成される。

第1章では，これまでアジアの発展で推進機能を果たしてきたASEANの中心性の原則が米中覇権争いだけでなく，内部からも挑戦を受けている現実が指摘される（大庭三枝）。続いて第2章と3章で，この覇権争いがアジア太平洋貿易の基調を自由主義から保護主義に転換させている事実を確認する（大橋英夫，遊川和郎）。第4章と5章では，覇権争いによるサプライチェーンの分断が確認され，同時にインドの重要性も指摘される（馬田啓一・熊谷章太郎）。第2部は6章で東アジアの地域協力で果たしたASEANとRCEPの意義が，第7章ではCPTPPの新規加盟をめぐる最新動向が確認される（清水一史・三浦秀之）。第8章と9章では米国提案のIPEFが考察され，続いて覇権争いによるデカップリングへの日本企業の対応が確認される（若松勇，助川成也）。10章では米中の対中戦略と対抗策などが総括的に示される（石川幸一）。第3部は第11章で中国の成長政策が整理され，一帯一路を含めて政策の有効性が示される（朽木昭文）。第12章と13章では韓国のサプライチェーン強靱化の取組み，次いでアジア貿易でのICT関連財，デジタル化の展開が確認される（百本和弘・大泉啓一郎）。第14章ではアジア域内通貨・金融体制が展望され，終章で日本の経済安全保障政策の必要性が訴えられる（赤羽裕・細川昌彦）。

本書はASEAN，日韓，いわば「小国」の視点を重視しつつ米中覇権争いで生じる変化を考察し，複眼的にアジアの通商秩序を探ろうとしている。各章の叙述も簡明である。激変する国際環境の中で，私たちは発展の方向性をどこに据えるか。編者らは執筆者間の「意見の調整」をしていないと書くが，本書からはアジアの発展における自由貿易体制の重要性が伝わってくる。

（ひらかわ ひとし）